

地域社会と連携しながら継続して環境美化に取り組む全国の学校を表彰

「第15回 環境美化教育優良校等表彰事業」 小学校、中学校の活動で最優秀校4校ほか決定

【最優秀校】

文部科学大臣賞	岩手県	盛岡市立 ^{しものほし} 下橋中学校
農林水産大臣賞	徳島県	三好市立 ^{にししいや} 西祖谷中学校
環境大臣賞	熊本県	益城町立 ^{ひろやすにし} 広安西小学校
協会会長賞	福井県	福井市社 ^{やしろ} 中学校

清涼飲料・ビールなど飲料業界6団体で構成する、公益社団法人食品容器環境美化協会（略称：食環協、会長：塩澤 賢一）では、今年度の「環境美化教育優良校等表彰事業」において、都道府県より推薦を受けた全国の小・中学校の中から最優秀校4校、優秀校6校、優良校32校を選定し、表彰いたします。

この表彰事業は、地域社会と連携しながら環境美化教育に独創的・継続的かつ熱心に取り組み、「公共の場所の美化」または「飲料あき容器等のリサイクル」を実践し、地域の環境美化に大きく寄与している小・中学校等を選出し表彰するものです。

最優秀校4校は、都道府県の推薦によって選出された中から審査会による厳正な審査を経て、「文部科学大臣賞」「農林水産大臣賞」「環境大臣賞」「協会会長賞」を決定いたしました。なお、昨年度と同様、環境美化活動をより包括的かつ総合的にとらえるため、小学校部門、中学校部門を区分せず表彰することといたしました。

今年のトピックは、重要有形民俗文化財である「祖谷のかずら橋」の環境美化や保全活動に取り組む徳島県三好市立西祖谷（にししいや）中学校の受賞。全校生徒数12名と生徒が年々減少する中、「国内外から訪れる観光客に笑顔でかずら橋を渡ってもらいたい」と地域住民とともに心を一つにしてさまざまな環境活動を実施し、次世代への継承に真摯に努めている取り組みが高く評価され、今回の受賞に至りました。

本年度の表彰式は2015年1月30日（金）東京スカイツリーが一望できる「浅草ビューホテル」（東京都台東区）にて、最優秀校4校を招いて開催いたします。



公益社団法人食品容器環境美化協会は、1973年に設立されて以来41年の間、飲料容器の散乱防止とリサイクル推進の啓発を中心とした環境美化の推進に努めています。日本の環境が美しくなることを実現するため「環境教育の支援」、「ポイ捨て防止の啓発」、ならびに「アダプト・プログラムの推進」などの事業を展開しています。

当協会の「環境美化教育優良校等への表彰」は、「環境美化教育の助長」及び「地域の環境美化の啓発」を目的に2000年度に発足し、本年で15回目というひとつの節目を迎えることになりました。その間、地域の環境美化やリサイクル推進を積極的に取り組む小中学校を表彰し、当該学校の児童生徒の活動を励ますとともに、広くその活動を紹介してきました。この表彰を通じ、環境美化教育の全国における活性化に寄与してまいりました。

環境教育への取り組みが年々重要になる中で、本年も全国の都道府県から、環境美化教育に独創的かつ熱心に取り組む、校内だけでなく地域とともに環境美化に大きく貢献した活動を実践している優秀な小・中学校が多数推薦されました。これら各校の活動内容を、審査委員が厳正に審査した結果、このたび4校が最優秀校、6校が優秀校、32校が優良校として選定され、表彰の運びとなったものです。

■本年度の各都道府県からの推薦状況

第15回は、環境美化につながる散乱防止活動またはリサイクル推進活動を継続している小学校・中学校から都道府県が1校を推薦する方式

	合計
推薦があった都道府県数	42
推薦校数	42

■本年度審査結果

審査委員会による審査の結果、受賞校を以下の通り決定

	受賞校数
最優秀校	4
優秀校	6
優良校	32

最優秀校に選ばれた4校の活動概要およびその他各賞の受賞校は以下の通りです。

■最優秀校の活動概要（詳細は P7～P10 参照）

散乱防止活動またはリサイクル推進活動	
文部科学大臣賞	<p>岩手県 盛岡市立下橋中学校</p> <p>「気づき・考え・実行する」ことをモットーに、総合的な学習の時間や生徒会活動を利用した環境美化に取り組んでいる。校地内の落ち葉掃きはもとより、校外にも積極的に向き、盛岡さんさ踊りの祭り期間は、近隣の小学校や住民と連携して合同清掃を実施。主に生徒会組織の一つである地区生徒会が計画し実行する活動で、毎回、生徒の呼びかけに応じて総勢 500 人もの人たちが参集するなど、一大イベントになっている。住民との交流も盛んで、地域からの要請を受けて生徒が行事に参加する場面も。また、生徒会の委員会として設置した同校の特徴でもある「エコ委員会」では、総合的な学習と連動させながらエコ学習やエコシンポジウムを開催し、「森は海の恋人」の体験学習など、学年ごとに自然環境への理解を深めている。同時に、不要なものは買わないリフューズを意識した 4R も推進、日常生活の中で環境を思いやる心が育っている。</p>
農林水産大臣賞	<p>徳島県 三好市立西祖谷中学校</p> <p>日本三大秘境のひとつといわれる祖谷地方にあり、重要有形民俗文化財の「祖谷のかずら橋」や、祖谷川の保全活動に取り組んでいる。かずら橋周辺の清掃活動では、全校生徒 12 名が、国内外から訪れる観光客に笑顔で橋を渡ってもらいたいとの思いを一つにして、数時間かけて空き缶やペットボトルなどの回収・分別に取り組む。また、地域住民や自治体と連携しながら進めているのが、かずら橋の保存活動だ。橋はシラクチカズラで作られているが、天然の材料が激減していることから、住民の指導の下、生徒はシラクチカズラの植え付けを行っている。同時に、総合的な学習の時間では、かずら橋の下を流れる祖谷川の水質を科学的に調査。こうした自然の中での環境美化活動は天候に左右されるため、予定通り進まないこともあるが、住民とのつながりを大事にしながらふるさとの宝を守り続けることで、生徒の心に郷土愛がしっかりと育まれている。</p>
環境大臣賞	<p>熊本県 益城町立広安西小学校</p> <p>「ごみの削減」「水の節約」「電気の節約」を基本に、住民や地域の企業と連携しながらさまざまな環境活動に取り組む同校は、環境教育先進校として県内の小中学校の模範となっている。ごみの削減を進めるために 3R にリペア、リファインを加えた 5R 運動を展開し、さらに広西ゼロ・ウェイスト作戦で日常生活のムダをゼロにする取り組みを行っている。これらの活動を地域へ広く発信しようと、校区内の企業「グランメッセ熊本」と環境活動の情報交換を通して交流を図っている。地域のエコ活動では、校区内外に範囲を広げた清掃に取り組み、アルミ缶やスチール缶など有価物回収活動を住民と連携して実施。どうすれば地域がきれいになるのかと環境意識が向上した児童は、校区内に阿蘇からの湧き水が出ている場所を自主的に清掃することを提案し、実践している。こうした日々の活動を続ける中で、環境保全の意識が着実に根付いている。</p>
協会会長賞	<p>福井県 福井市社中学校</p> <p>部活動ごとに地域の清掃やピオトープ整備といった活動にボランティア参加し、住民と交流を深めている。「1 部活動 1 ボランティア」を掲げ、年度当初に学校と公民館や青年会議所などが打ち合わせを実施、どの部活動がどの地域活動や行事に参加するかを調整しながら綿密に計画を立てている。たとえば、野球部員は、住民の憩いの場であるあじさいロードの美化活動を住民といっしょに取り組んでいる。サッカー部員は、校区内の社西小学校のピオトープを小学生と整備。また、科学部は、緑道沿いのイルミネーション制作・設置と撤去にかかわり、その点灯式では放送部が司会を務め、吹奏楽部が生演奏をして会場を盛り上げている。そうした活動により、地域の一員であるという自覚を持った生徒たちは、美化委員会が中心となり「ごみ拾い隊」を結成し、毎週水曜日の朝、授業開始前に学校周辺を清掃、地域の環境美化に大きく寄与している。</p>

■その他受賞校：

<優秀校> 協会会長賞 6校

青森県	風間浦村立蛇浦 <small>へびうら</small> 小学校	山形県	最上町立最上中学校
群馬県	高崎市立大類 <small>おおるい</small> 中学校	大阪府	大阪府立豊中支援学校
兵庫県	姫路市立香呂南 <small>こうろ</small> 小学校	広島県	尾道市立吉和小学校

<優良校> 協会会長賞 32校

北海道	羽幌町立天売 <small>てうり</small> 小中学校	秋田県	男鹿市立野石小学校
福島県	田村市立緑小学校	茨城県	日立市立助川小学校
栃木県	市貝町立赤羽小学校	千葉県	八千代市立みどりが丘小学校
東京都	府中市立日新小学校	新潟県	新潟市立越前小学校
山梨県	甲州市立東雲小学校	長野県	長野市立東条 <small>ひがしじょう</small> 小学校
富山県	上市町立南加積小学校	石川県	七尾市立東湊小学校
岐阜県	可児市立西可児中学校	静岡県	牧之原市立片浜小学校
愛知県	豊川市立西部中学校	三重県	津市立豊津小学校
滋賀県	近江八幡市立老蘇小学校	京都府	京都聖母学院小学校
奈良県	広陵町立真美ヶ丘中学校	和歌山県	和歌山市立西脇小学校
島根県	出雲市立窪田小学校	岡山県	矢掛町立川面小学校
山口県	下松市立久保小学校	愛媛県	八幡浜市立双岩小学校
高知県	土佐市立土佐南中学校	福岡県	福智町立市場小学校
佐賀県	唐津市立湊中学校	長崎県	壱岐市立盈科小学校
大分県	別府市立中部中学校	宮崎県	木城町立木城中学校
鹿児島県	奄美市立住用小学校	沖縄県	うるま市立具志川小学校

■表彰授与

- 最優秀校4校の表彰式は、下記にて行います。

2015年1月30日（金）16:30～18:10（受付 15:30～）

浅草ビューホテル 3階「祥雲の間」

東京都台東区西浅草3-17-1 電話03-3847-1111

<http://www.viewhotels.co.jp/asakusa/> ＊つくばエクスプレス「浅草駅」直結

懇談会 18:10～20:00（予定）28階「ベルウェデール」

- 優秀校ならびに優良校については、後日、各都道府県において表彰状等を伝達します。

環境美化教育優良校等表彰事業の概要

- 主催：公益社団法人食品容器環境美化協会
- 後援：文部科学省、農林水産省、環境省
- 表彰の対象：環境美化教育に独創的・継続的かつ熱心に取り組み、「公共の場所の美化」または「飲料あき容器等のリサイクル」を実践し、地域の環境美化に大きく寄与している小・中学校、およびこれに準ずる小中学生の団体

- 表彰：

最優秀校	文部科学大臣賞	1校
最優秀校	農林水産大臣賞	1校
最優秀校	環境大臣賞	1校
最優秀校	食環協会会長賞	1校

- ・賞状と副賞を贈呈
- ・上記の他、「優秀校」、「優良校」に対し、食環協会会長賞と副賞を贈呈

■応募・推薦・審査：

【最優秀校・優秀校・優良校】

都道府県の環境整備主管部局、または教育主管部局が推薦する小中学校を審査委員会で審査し、表彰する

■審査委員：

[審査委員長] 小澤 紀美子 東京学芸大学名誉教授・東海大学大学院客員教授
こども環境学会学会長

[審査委員]

木野 正則 公益財団法人 日本容器包装リサイクル協会
業務執行理事・企画広報部長

柏木 順二 公益財団法人 日本環境協会 専務理事

小島 あずさ 一般社団法人 JEAN 事務局長・副代表

高橋 康夫 全国小中学校環境教育研究会 元会長

三木 哲 公益社団法人食品容器環境美化協会 企画委員

一般社団法人 全国清涼飲料工業会 環境部長

小牧 悟 公益社団法人食品容器環境美化協会 企画委員

アサヒ飲料株式会社 品質保障部 環境Gグループリーダー

(敬称略)

公益社団法人食品容器環境美化協会の概要

1973年（昭和48年） 任意団体「食品容器環境美化協議会」として発足

1982年（昭和57年） 社団法人「食品容器環境美化協会」（農林水産大臣設立認可）

設立以来41年間、飲料容器の散乱防止など、国土の環境美化の推進に努め、公共の福祉の増進に資するため、各種啓発活動を行っている公益法人です。

2011年（平成23年） 公益社団法人「食品容器環境美化協会」（内閣府認可）

公益法人制度の改革に伴い、内閣総理大臣から公益社団法人の認定を受け、

「公益社団法人食品容器環境美化協会」として再発足しました。

- 主な活動：
- 新しいまち美化手法「アダプト・プログラム」の普及と推進活動
 - 小・中学校でのパソコン学習支援サイト「まち美化キッズ」の運営、
教育者向け「環境美化 学習のガイド」の制作提供等の次世代への
環境教育支援 <http://www.kankyobika.or.jp/kids/index.html>
 - 市民団体等への環境美化活動の支援
 - 「ポイ捨て防止」啓発活動
 - 散乱ごみ対策の調査・研究 等

構成団体：一般社団法人 全国清涼飲料工業会 <http://j-sda.or.jp/>

清涼飲料メーカーなど48会員94社、組合会員28会員244社、賛助会員107社からなる社団法人

一般社団法人 全国トマト工業会 <http://www.japan-tomato.or.jp/>

トマト加工製品メーカーなど36社からなる公益法人

一般社団法人 日本果汁協会 <http://www.kaju-kyo.ecnet.jp/>

果実飲料メーカーなど127会員からなる公益法人

日本コーヒー飲料協会

コーヒー飲料メーカーなど21社からなる任意団体

コカ・コーラ協会

日本コカ・コーラ社、全国のコカ・コーラボトラーズ11社からなる任意団体

ビール酒造組合 <http://www.brewers.or.jp/>

アサヒ、キリン、サッポロ、サントリー、オリオン（沖縄）のビール5社による特別認可法人

■本件に関するお問い合わせ先■

公益社団法人食品容器環境美化協会（食環協）

〒108-0023 東京都港区芝浦2-15-16 田町K.Sビル6階

TEL. 03-5439-5121 FAX. 03-5476-2883

ホームページ <http://www.kankyobika.or.jp/>